

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業 事業評価(一次評価)について

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和7年12月25日

協議会名： 四万十町地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
四万十町地域公共交通活性化協議会	①弘川線	【R7】 輸送人員目標:414人 輸送人員実績:321人 1運行当たり輸送人員:1.7人 【R6(参考)】 輸送人員実績:300人 1運行当たり輸送人員:1.6人	A ・コミュニティバスは、可能な限り幹線系統である路線バス及び鉄道との接続を意識したダイヤ設定をしている。 ・路線バス、コミュニティバス及び鉄道の時刻表を情報冊子にまとめて運行会社及び役場などの公共施設に配置している。 ・地域住民の意見を路線の再編に反映できるよう、説明会や意見交換会を実施している。 ・利用者数の著しく少ない既存路線バス1路線の休止及びコミュニティバス2路線の減便等の措置を進め、運送資源の確保による事業継続を図っている。	C 【目標1】 <u>路線バス及びコミュニティバス利用者数を維持させる</u> 目標: (路線バス)64,606人 (コミュニティバス)20,194人 【R7実績】 利用者数の合計 :79,826人 路線バス :61,499人 コミュニティバス :18,327人 *目標を達成できていない。 【R6実績(参考)】 利用者数の合計 :80,344人 路線バス :61,665人 コミュニティバス :18,679人 【目標2】 <u>路線バス及びコミュニティバスの収支率を維持させる</u> 目標:14.71% 【R7実績】 収支率 :13.90% ・運賃収入:22,411,129円 ・経常費用:161,175,552円 *目標を達成できていない。 【R6実績(参考)】 収支率 :13.69% ・運賃収入:22,418,969円 ・経常費用:163,678,636円 【目標3】 <u>路線バス及びコミュニティバスの公的資金投入額(利用者1人当たり)を縮小させる</u> 目標:1,560円/人 【R7実績】 利用者1人当たり:1,704円 ・公的資金投入額:136,098,398円 ・利用者数 :79,826人 *目標を達成できていない。 【R6実績(参考)】 利用者1人当たり:1,712円 ・公的資金投入額:137,604,068円 ・利用者数 :80,344人 (計画3年目、5年目に実施) 【目標4】 <u>コミュニティバス利用者の満足度を向上させる</u> 目標:アンケート調査により、各コミュニティバスの「運行経路」、「運行ダイヤや乗り継ぎ」に関する満足傾向(とても満足、満足の合計)がそれぞれ80%を超えることを目標とする。 【目標5】 <u>主要施設最寄りバス停における乗降者数が増加する</u> 目標:年5%増加 【R7実績】 98%(前年度比2%減) *目標を達成できていない。 合計:28,167人 ・乗車:13,765人 ・降車:14,852人 【R6実績(参考)】 合計:28,601人 ・乗車:13,589人 ・降車:15,012人	路線ごとに増減はあるものの、人口減少が進む中で、全体的な公共交通の利用者についても同様に減少傾向にある。目標値については利用者数に依存するものが多いことから目標数値を維持及び向上させることが厳しい状況となっている。 既存路線を含め、地域の実情に見合った路線に再編することが重要であると考えており、利用実態の把握のため、これまで乗降箇所の記録ができていなかった3路線について、携帯端末を利用した利用者カウントシステムを導入した。これにより従来の方法による乗降者記録と合わせ、町単独の路線バスについては全て乗降箇所が記録されることとなるため、記録の分析により今後の再編に生かしたいと考えている。 令和8年度においては、幹線系統路線バスの速達化などの利便性向上を図る路線再編を行う方針である。それに付随する枝線の取り組みでは、既存コミュニティバスの経路変更及び新たな移動手段確保の手法として交通空白地域に幹線系統と接続する公共ライドシェアを導入する予定である。 町内路線については、運行事業者(四万十交通)の乗務員不足から数年後の既存路線の維持が困難な状況が懸念されている。乗務員の募集についても事業者による働きかけがされているものの、思うように成果が出ていないようである。この懸念については一部路線の縮小及び事業者へのスクールバス委託の減少により現在のところ維持ができる状況に落ち着いているが、今後も路線バス全体の安定した運営のため、仕業数に応じた乗務員の確保状況等については十分把握に努める。また、既存コミュニティバス及び路線バスと競合するタクシー事業者等の意見も取り入れながら、町内交通網の確保維持を図る。
	②道德線	【R7】 輸送人員目標:1,667人 輸送人員実績:1,729人 1運行当たり輸送人員:7.3人 【R6(参考)】 輸送人員実績:1,501人 1運行当たり輸送人員:6.4人			
	③奥呉地線	【R7】 輸送人員目標:1,231人 輸送人員実績:916人 1運行当たり輸送人員:3.4人 【R6(参考)】 輸送人員実績:1,017人 1運行当たり輸送人員:3.9人			
	④折合線	【R7】 輸送人員目標:④+⑤1,193人 輸送人員実績:418人 1運行当たり輸送人員:3.1人 【R6(参考)】 輸送人員実績:449人 1運行当たり輸送人員:3.4人			
	⑤折合線(天ノ川西経由)	【R7】 輸送人員目標:④+⑤1,193人 輸送人員実績:691人 1運行当たり輸送人員:8.6人 【R6(参考)】 輸送人員実績:762人 1運行当たり輸送人員:9.7人			
	⑥若井川線	【R7】 輸送人員目標:906人 輸送人員実績:851人 1運行当たり輸送人員:4.7人 【R6(参考)】 輸送人員実績:865人 1運行当たり輸送人員:4.7人			
	⑦川ノ内線	【R7】 輸送人員目標:989人 輸送人員実績:754人 1運行当たり輸送人員:4.2人 【R6(参考)】 輸送人員実績:809人 1運行当たり輸送人員:4.4人			
	⑧神ノ川線(水源地)	【R7】 輸送人員目標:⑧+⑨340人 輸送人員実績:290人 1運行当たり輸送人員:1.5人 【R6(参考)】 輸送人員実績:198人 1運行当たり輸送人員:1.1人			
	⑨神ノ川線(奥神ノ川)	【R7】 輸送人員目標:⑧+⑨340人 輸送人員実績:6人 1運行当たり輸送人員:2.4人 【R6(参考)】 輸送人員実績:8人 1運行当たり輸送人員:2人			
	⑩床鍋線	【R7】 輸送人員目標:1,337人 輸送人員実績:1,150人 1運行当たり輸送人員:4.4人 【R6(参考)】 輸送人員実績:1,021人 1運行当たり輸送人員:3.9人			
	⑪東北ノ川線	【R7】 輸送人員目標:1,628人 輸送人員実績:1,126人 1運行当たり輸送人員:4.3人 【R6(参考)】 輸送人員実績:1,321人 1運行当たり輸送人員:5.1人			
	⑫飯ノ川線	【R7】 輸送人員目標:1,468人 輸送人員実績:1,630人 1運行当たり輸送人員:6.9人 【R6(参考)】 輸送人員実績:1,353人 1運行当たり輸送人員:5.8人			
	⑬小野線	【R7】 輸送人員目標:601人 輸送人員実績:517人 1運行当たり輸送人員:2.8人 【R6(参考)】 輸送人員実績:590人 1運行当たり輸送人員:3.2人			
		フィーダー路線①～⑬の利用者合計は、【R6】10,194人【R7】10,399人と増加しており、昨年と比べ5系統の利用者は増加している。ただし、路線ごとに見ると約半数の路線において利用者は昨年に引き続き減少傾向であり、上記のうち目標値を達成した路線は②、⑫の2路線のみであった。期間中、路線再編は行っておらず要因としては利便性の向上によるものではないため、利用者の自然増減であると考えられる。今後においても路線バスを含め利用実態の把握に努めつつ、必要に応じ再編を実施したい。			

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和7年12月25日

協議会名:	四万十町地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域フィーダー系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本町は、高知県の西南部に位置し、町の東南部は土佐湾に面し、北部は愛媛県との県境に接しており、総面積は642.28km²で、総面積のうち林野面積が87.1%を占めている。人口推移は、昭和35年に38,584人であった本町の総人口は、現在に至るまで減少を続け、令和2年には15,607人となっており、この60年間で59.5%の減少となっている。</p> <p>高齢化率は昭和35年の8.4%に対し、令和2年には44.9%に増加し、若年者人口比率は、昭和35年の20.1%に対し、令和2年には7.8%と減少している。</p> <p>高齢化の進行等により、高齢者等の移動が困難な状況になっており、広域的な対応を含め、公共交通網の再編に取り組む必要に迫られているのが本町の現況である。</p> <p>このような状況において、住民の生活および移動の実態を踏まえた公共交通網の再構築を目指し、高齢化が進む中山間地域等の移動手段を確保し住み慣れた地区での生活を守ることを目的として、既存のバス路線を改善する作業(利用の少ない路線はコミュニティバスに置き換えることも視野に入れている)と並行し、地域間交通ネットワークに接続する公共交通の確保に取り組むことが重要となっている。</p>

四万十町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和7年度)

四万十町基礎データ

合併状況:平成18年3月に3町村が合併
人口:15,607人(令和2年国勢調査)
面積:642.28平方キロメートル(令和2年国勢調査)

四万十町における主な公共交通概要

○鉄道 JR四国による土讃線、予土線
土佐くろしお鉄道による中村・宿毛線

○バス
(幹線)

(株)四万十交通(旧(有)高南観光自動車)が近隣自治体間、及び窪川駅を起点とし、旧大正町と旧十和村主要施設を経由する路線を民間事業として運行。

- ・窪川ー大野見(中土佐町)
- ・窪川ー佐賀駅(黒潮町)
- ・窪川ー土佐大正駅
- ・土佐大正駅ー道の駅とおわ
- ・その他町内各路線

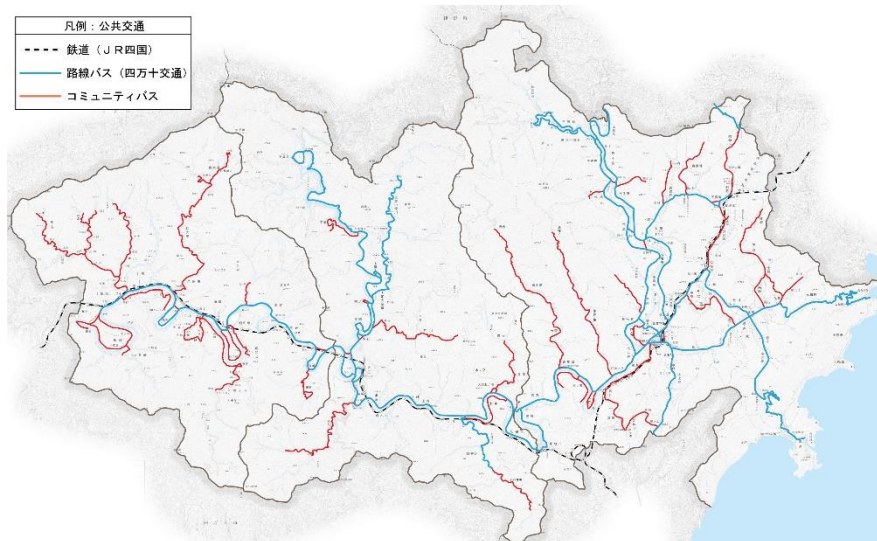
(フィーダー)

- ・旧窪川町の中心部である窪川駅を起点とし、公共交通空白地域にコミュニティバスを運行(株)四万十交通)
- ・旧大正町の中心部である土佐大正駅を起点とし、公共交通空白地域にコミュニティバスを運行(有)丸三ハイヤー)
- ・旧十和村の中心部である土佐昭和駅及び十川地区の道の駅とおわを起点とし、公共交通空白地域にコミュニティバスを運行(株)四万十交通)

地域の交通の目指す姿(事業実施の目的・必要性)

別添1ー2参照

四万十町の公共交通ネットワーク図



四万十町地域公共交通会議

地域内フィーダー系統
事業評価(令和7年度)

協議会の構成員

・四国運輸局 ・高知運輸支局 ・四万十町 ・高知県 中山間振興・交通部 交通運輸政策課 ・(株)四万十交通 ・丸三ハイヤー ・住民代表(窪川・大正・十和)

前年度の事業評価における課題

今後地域公共交通の利便性向上の面も含め、利用促進に向けた取り組みを考える必要があり、そのためには既存の路線バスを含め一定見直しをする必要がある。

フィーダー系統路線についても、利用が低調な路線は慎重に見直しを検討する必要があると考えているため、今後積極的に利用者懇談会などの地域の意見を取り入れる機会を設けたい。

定量的な目標・効果

【目標1】路線バス及びコミュニティバス利用者数を維持させる

目標:(路線バス)64,606人(コミュニティバス)20,194人

地域の移動ニーズに合わせた路線再編と利便性向上、利用促進の取り組みなどを行う。

【目標2】路線バス及びコミュニティバスの収支率を維持させる

目標:14.71%

地域の移動ニーズとの整合を目指し、路線バスからコミュニティバスへの置き換えを行う。

【目標3】路線バス及びコミュニティバスの公的資金投入額(利用者1人当たり)を縮小させる

目標:1,560円/人

支出に見合ったサービスとしてモード転換を図りつつ路線を維持する。

【目標4】コミュニティバス利用者の満足度を向上させる

目標:アンケート調査により、各コミュニティバスの「運行経路」、「運行ダイヤや乗り継ぎ」に関する満足傾向(とても満足、満足の合計)がそれぞれ80%を超えることを目標とする。(計画3年目、5年目に実施)

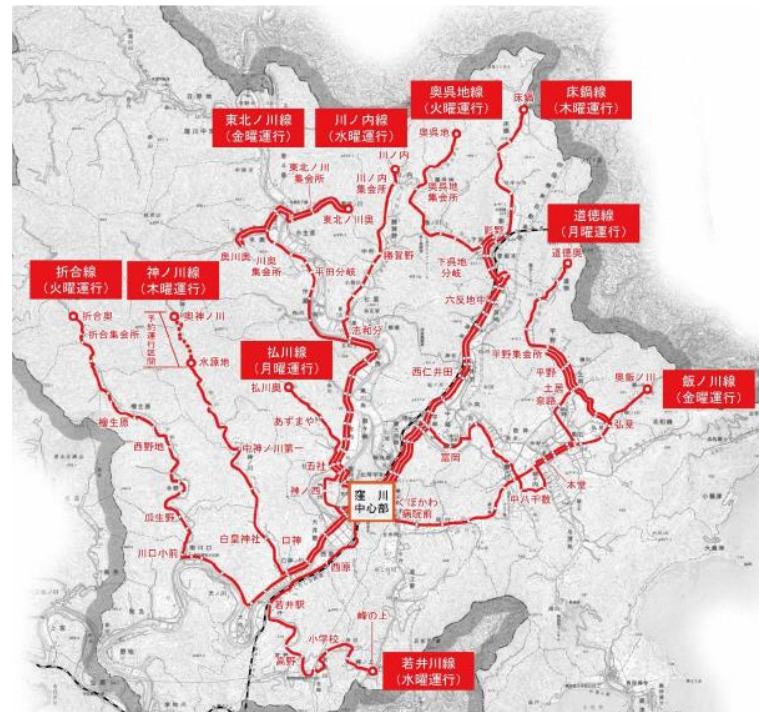
【目標5】主要施設最寄りバス停における乗降者数が増加する

目標:年5%増加

公共交通網と地域の主要集客施設等の連携と利便性向上を図る

フィーダー系統図

本事業を導入している窪川地区を抽出する。



本事業を導入している十和地区(小野線)を抽出する。



「定量的な目標・効果」達成のための取組

- ・公共交通会議を令和7年6月16日に開催した。利用数の著しく少ない路線バス及びコミュニティバスについて利用実態に合った路線規模縮小を協議し、積極的に意見交換を行った。(路線バス1路線については休止、コミュニティバス2路線については減便)
- ・時刻表及び路線図を更新し、分かりやすい情報掲示を行った。また、バス時刻情報冊子の更新を行いバス車内及び公共施設等への配置を行った。
- ・地域住民の意見を路線の再編に反映できるよう、説明会や意見交換会を実施している。

自己評価

事業実施の適切性

○コミュニティバスは、可能な限り幹線系統である路線バス及び鉄道との接続を意識したダイヤ設定をしている。○路線バス、コミュニティバス及び鉄道の時刻表を情報冊子にまとめて運行会社及び役場などの公共施設に配置している。○地域の方の意見を路線の再編に反映できるよう、説明会や意見交換会を実施している。

「定量的な目標・効果」の達成状況

【目標1】路線バス及びコミュニティバス利用者数を維持させる

目標:(路線バス)64,606人(コミュニティバス)20,194人

【R7実績】利用者数の合計:79,826人 路線バス:61,499人 コミュニティバス:18,327人 ※目標値を達成できていない。

【R6実績(参考)】利用者数の合計:80,344人 路線バス:61,665人 コミュニティバス:18,679人

【目標2】路線バス及びコミュニティバスの収支率を維持させる

目標:14.71%

【R7実績】収支率:13.90% 運賃収入:22,411,129円 経常費用:161,175,552円 ※目標値を達成できていない。

【R6実績(参考)】収支率:13.69% 運賃収入:22,418,969円 経常費用:163,678,636円

【目標3】路線バス及びコミュニティバスの公的資金投入額(利用者1人当たり)を縮小させる

目標:1,560円/人

【R7実績】利用者1人当たり:1,704円 公的資金投入額:136,098,398円 利用者数:79,826人 ※目標値を達成できていない。

【R6実績(参考)】利用者1人当たり:1,712円 公的資金投入額:137,604,068円 利用者数:80,344人

【目標5】主要施設最寄りバス停における乗降者数が増加する

目標:年5%増加

【R7実績】98%(前年度比2%減) 合計:28,167人 乗車:13,765人 降車:14,852人 ※目標値を達成できていない。

【R6実績(参考)】合計:28,601人 乗車:13,589人 降車:15,012人

事業の今後の改善点

既存路線を含め、地域の実情に見合った路線に再編することが重要であると考えており、利用実態の把握のため、これまで乗降箇所の記録ができていなかった3路線について、携帯端末を利用した利用者カウントシステムを導入した。これにより従来の方法による乗降者記録と合わせ、町単独の路線バスについては全て乗降箇所が記録されることとなるため、記録の分析により今後の再編に生かしたいと考えている。

令和8年度においては、幹線系統路線バスの速達化などの利便性向上を図る路線再編を行う方針である。それに付随する枝線の取り組みでは、既存コミュニティバスの経路変更及び新たな移動手段確保の手法として交通空白地域に幹線系統と接続する公共ライドシェアを導入する予定である。

町内路線については、運行事業者(四万十交通)の乗務員不足から数年後の既存路線の維持が困難な状況が懸念されている。乗務員の募集についても事業者による働きかけがされているものの、思うように成果が出ていないようである。この懸念については一部路線の縮小及び事業者へのスクールバス委託の減少により現在のところ維持ができる状況に落ち着いているが、今後も路線バス全体の安定した運営のため、仕業数に応じた乗務員の確保状況等については十分把握に努める。また、既存コミュニティバス及び路線バスと競合するタクシー事業者等の意見も取り入れながら、町内交通網の確保維持を図る。

その他PRポイント

- 集落から主要駅をつなぐだけの運行ではなく、病院やスーパーなど生活に必要な施設を経由することで、利便性を向上するとともに町内商店街の活性化にもつながっている。
- 意見交換会で出てきた意見を基に、路線の変更やダイヤ改正など、公共交通会議にて協議を行い反映している。
- 路線バス、コミュニティバス及び鉄道の時刻表を情報冊子にまとめて運行会社及び役場などの公共施設に配置している。